

# 肝付町郷土芸能祭

郷土の芸能を絶やさないために。  
肝付町の芸能を知ってもらい、実際に本番を見に来て欲しい。



「万越し祝い」を合併後初披露

万越しとは、ブリが定置網で1万匹以上捕れることで、ブリが大漁だった時に万越し祝いをを行った。今回肝付町が活気づくように、また活気づく材料にと願い、万越し祝いの再現となる寸劇を披露した。次回は、女性部と縁のある宇宙開発の父、故・糸川先生生誕100周年及び内之浦の実験場開設50周年の記念イベントにも機会があれば出演する予定とのこと。

1月29日（日）、町文化センターで肝付町郷土芸能祭が開催され、約700人の観客でにぎわいました。

郷土芸能祭は、肝付町に伝わる伝統芸能の伝承と保存、後継者の育成を図るために、今回初めて開催され、薬丸野太刀自頭流や平後園振興会による鎌踊り、本町の八月踊り、合併後初めて公の場で披露された内之浦の第5ブロック女性会による寸劇「万越し祝い」や4年ぶりに復活した宮下地区の棒踊りなどが披露されました。

またプロの演者による奄美の島唄や津軽三味線なども披露され、観客は地元の伝統芸能を堪能し、島唄の軽快な音楽に踊りだしステージに飛び入りする方もおり、会場は熱気を帯びました。万越し祝いに出演した浜崎振興会の丸山節子さんは「肝付町の活性化を願って出演した。今回初めて参加する人もおり、万越し祝いを今度も引き継いでいけたら嬉しい」と話されました。

芸能祭を見に来た高山小学校4年の永吉太樹君は「肝付は都会じゃないけど、歴史的文化があつて驚いた。初め

て自頭流を見たけど、かつこよくてちよつとやってみたくと思った」と話し、笹ヶ尾振興会の前田エミ子さんは「このようなイベントは楽しい。また見に来たい」と話されました。



津軽三味線の石井秀岱さん（写真上）  
島唄のあまみ紬人（つむぎんちゆ）  
の演奏に踊りだす観客（写真下）



やくまるのたちじげんりゆう  
薬丸野太刀自頭流